

自由詠



夫の弁当づくり  
そろそろキツイ  
でも  
「ありがとう」の魔法にかかり  
今日も早起き

杉下 啓恵

題詠『草』

草深かった里山がなくなり  
いつの間にか  
家がシヨップが建ち並ぶ  
開発と云うバケモノは  
停まることを 知らない

杉本 明美

若葉の風に  
吹かれると  
心までさわやかに  
光合成はできないが  
何か良いことができそつな

高原 美智子

畳替えした  
い草の香り いい香り  
へりの柄も気に入って  
新しくなっても 古女房  
も 悪くないと思うよ

大槻 幸子

もっと 御目にかかりたかった  
傍らに居てくれる  
それだけで安心できた  
諭吉さん  
平成 去り行く

山本 佳代子

風の動きや  
草の色  
何となく  
眺めている  
庭が輝く春が好き

玉田 久美子

歩いていると見つける  
花の季節の心地よさ  
みかんの花の匂いに  
はっとする  
ときめき感

宮島 かつえ

薬にもなれば  
毒にもなる  
それって  
言葉にも  
通じるところがある

松本 晴美



草の緑は  
いやしの色  
風ゆれるさまは  
又、一興  
薬にもなるんだよ

柴田 のりこ

